

学校教育目標	<目指す学校像> 「えがおいっぱい ふれあいいっぱい あたたかさいっぱい」 ○気持ちや思いを表現する力を育てます。(知) (徳) ○健康な体と豊かな心を育てます。(体) (徳) ○地域の一員として自立する力を育てます。(公) (開)										
	学校概要 創立 35 周年		学校長 福島 豊		副校長 志賀 勝美		2 学期制		幼児・児童・生徒数 44 人		
幼稚園:		小学部: 23		中学部: 11		高等部本科: 10		専攻科:			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力
①気持ちや思い、意思を表現する意欲と力 ②自分に合わせた健康の保持増進と、よりよく生きようとする意欲と力 ③地域の中で主体的に自立して生活する意欲と力

「12年間で育てる子ども像」と 具体的取組
健康の保持増進を図りながら、人との関わりを喜び、 自分なりの表現することを通して地域の一員として自己実現を図る子ども
児童生徒一人ひとりの個性と障害の状態に応じた適切な教育を通じて、その持てる力や可能性を最大限に伸ばし、子どもたちの自己実現を支援します。特に、健康の保持増進を図りながら、他との関わりを喜び自分の気持ちや思いを表現しようとする意欲と力を育てます。また、多くの経験を積み重ねることで豊かな心を培い、地域の一員として主体的に社会参加し自立するための力を育成します。

中期取組目標	○ 肢体不自由特別支援学校としての高い専門性のある学校を目指す ①授業力・指導力の向上 ②個に応じた的確な指導の充実 ③自己肯定感を育む指導の充実 ○ 関わりを大切にする学校を目指す ①組織的かつ柔軟な支援体制の構築 ②風通しの良い職場環境の醸成 ③保護者や地域・関係機関との連携強化 ○ 誰もが安心できる学校を目指す ①支援体制の整備 ②施設・設備の充実 ③危機管理体制の再構築
---------------	---

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知 担当 連絡会(各学級)	① 12年間の一貫した指導・支援を行うため、目標設定や指導・支援の手立てに関する確認や指導の振り返りを充実させ、職員間の共通理解を図る。② 個の実態やニーズに応じたコミュニケーションスキルを育成するためにICT等の支援機器や自作教材の活用を推進する。
豊かな心 担当 特別支援部・連絡会(各学級)	① 他者とふれあうことの楽しさや人や地域とのつながりを体感できるように、東俣野小学校や大正中学校、若葉台特別支援学校との交流等を充実させる。② 児童生徒の自尊感情や自己肯定感を育むためのねらいを積極的に取り入れた授業を展開する。
健やかな体 担当 保健安全部・たいいく	① 健康保持のために、教職員間及び保護者との間で、個々の健康状態の把握と適切なケアについての共通理解を深め、併せて個々の特性やねらいに合わせた運動プログラムの充実を図る。② 口腔衛生の意識向上を図るために、年間を通して歯磨き指導を推進する。
専門性の向上 担当 研究研修部・たいいく	① 個々の目標に沿った指導の充実と評価の妥当性・信頼性を高めるため、指導内容や指導方法、学習形態、教材等の工夫を行う。② ねらいを明確にしてPT・OTその他の研修に取り組み、様々な実態の子どもの支援に活かし、指導力の向上に努める。
開かれた学校 担当 管理職・連絡会(各学級)	① 教職員が質の高い指導を自信をもってできるように、チームによる指導体制を充実させる。② 学級の枠を超えて学部組織を活用することにより、互いの良い取り組みを学び、指導を充実させる。③ 学校運営協議会設置に向けての準備を行う。
安心・安全な学校 担当 高度医療対応委員会・保健安全部・医ケア部	① 高度医療対応委員会を年間を通して開催し、人工呼吸器児等に対応する校内体制の在り方等を整理する。② 安全に対する意識の向上と組織的な安全対策整備のため、ヒヤリハット報告を集約・分析し、定期的に共有する。③ 停電時の対応を含めた体系的な危機管理マニュアルを整備する。
キャリア教育 担当 進路担当・進路支援部	① 将来の多様な社会参加を見据え、個々の資質や伸ばしたい能力を明確にし、キャリア発達の視点を持って地域資源を活用した進路学習の充実を図る。② 施設見学、進路面談・説明会・懇談会の充実を図り、一貫性のあるキャリア発達と社会的自立の意識を高める支援を行う。
センター的機能 担当 特別支援教育コーディネーター	① 本校の教育相談の強みを具体的に紹介したり、相談の手続きを簡素化したりすることで、地域でのセンター的機能の活用へつなげる。② 地域や支援に関わる人たちへ、子どもたちとの関わり方や車いすの操作等の各種研修を積極的に行うことで、理解啓発を推進する。
いじめへの対応 担当 管理職・人権担当	① 教職員の適切な立ち振る舞いや言動が子どもの自尊感情を育むことを共有し、定期的にチェックシートを活用して子どもに向きあう教育職員としての姿を振り返り、課題の発見と改善を行う。② 毎月の連絡調整会において、いじめや人権に関わる事案の確認を行う。
人材育成・組織運営 (働き方改革) 担当 管理職・メンターチーム	① グループウェアを活用して情報や課題の事前共有を行い、会議の精選化や効率化を図る。② 職員個々が業務の効率化への意識向上を図るため、定時退勤日を定着させる。③ メンターチームの活動の中で、自身の課題整理や経験の豊かな教員から学ぶ機会を設ける。